

慶応三年五月三日より慶応三年五月七日まで

P8310681right

(大磯、程ヶ谷)第五時小田原出立、九時半大磯午休、六時過程ヶ谷着、栄助弥一来る、定役同心も引続追々

来る、明日帰着を宅へ報告し奴老人明早朝遣し候積り命し敷(\*1)

四日巳 雨午前止漸々晴

(品川着)第五時半程ヶ谷出立、十二時前品駅に到り午餐を川崎屋にて喫し三時半過帰着、家来其外人足等へ

賀銀遣し、塚原(但)宅状為持徒々申遣させる

五日午 晴

朝比奈(甲)へ兼て頼の鳴海紋り三反買持帰り届け遣す、礫川より柏葉糕(\*2)贈り来る、

長蔵当賀に来る

昨着の賀銀遣す、御礼有し謁に付□齊□登城、出 殿、江連(加)へパークスよりの贈り品並兼て頼

の鳴海紋三反買入持帰に付為持遣す、辰弥母子三人来る(小品持来酬品遣す)、須崎(常)来る

P8310681left

六日未 晴午下雷雨俄過夕前晴

宅調、漁獵一概に意あり、山本長へ同道を勧むる書を遣す、礫姑並長次とも右勧めに応じて来る小品持来る児輩等を携て午前より船を雇て海獵一概に出る、海上にて強雨に逢う、夕前帰着、

土浦候より

活澁鯉五枚贈越也し旨、江連(加)より昨の謝辞を述べ、鯉一尾贈り越旨、富沢叔母来り大助

より割煮品一重団扇(うちわ)十柄贈来るとて、右品持来、□町両女兒着、賀として割煮品一重持来叔母と共に泊宿す、礫姑長次一同夕餐を喫し右兩人(姑・長)は帰る

七日申 晴

富沢叔母へ御褒福分け鳴海紋一反を贈る、□町両児へ(黒ビロード、板メ縮緬、手□い物)切地

(布地)其外小品を遣す、出 殿外国人

江戸居留地御用取調の様、朝比奈(甲)共に河内守殿御書取を以、被仰渡候、屋代(増)より文通を以内山(鈔)

\*1:敷(か)と思われる、疑問や詠嘆を表す

\*2:柏葉糕、 柏餅。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。